

2.2.22 患者・家族への退院支援を適切に行っている

患者・家族の生活意向を MSW らが早期確認 理想とする細やかな退院支援の実現目指す

一般社団法人 巨樹の会 下関リハビリテーション病院（山口県下関市）



写真1 入院時に患者、家族を中心に主治医、MSW、療法士、退院支援看護師、管理栄養士、看護師が一堂に会し、入院中の生活、退院後の生活について話し合う



写真2 MSW が患者、家族との定期的な面接で現在の気持ちや退院後の生活の意向を確認。MSW は前方支援に2名、後方支援に各病棟2名体制で配置、病棟での受け持ち患者数は各人20～30名

細やかな退院支援のかかわり

MSW は関係者間を糊づける役割

入院時に患者・家族、医師、看護師、療法士、管理栄養士、MSW、退院支援看護師が一堂に会し、退院後の生活について話し合う(写真1)。療法士は入院早期に自宅環境確認を目的とした家屋調査を患者・家族同席で実施。入院後2週間以内に、患者・家族の希望、各種初期評価に基づく多職種の意見をふまえた退院支援計画が立案される。

その後も定期的に担当スタッフ間、同職種間、病棟管理者間でのカンファレンスや回診が行われ、目標達成状況を確認、計画をその都度調整しながら退院後生活について多職種間での協議を重ねていく。管理栄養士は食事摂取量や体重の変動等を定期的に評価し必要に応じ介入、既往歴に応じた栄養指導を行い調理訓練にも同席している。

退院支援計画の進捗状況、自宅等への退院時期を念頭に、家族に対しては看護師が退院後の健康管理、医療処置、服薬指導などについて指導。介

護福祉士らはおむつ交換など介護指導を実施する。

患者・家族との面談では多職種チーム各担当者が退院前後の支援プランを説明。外出・外泊訓練の提案、退院後の外来・通所・訪問リハビリテーション、総合支援事業等の利用についてフォローしているほか、復職支援として入院中および退院後も復職に向けた職場スタッフとのカンファレンス開催、自動車運転支援ではシミュレーターでの机上評価と自動車学校と連携しての実車訓練を計画的に実施している。

また、ケアマネジャーや施設スタッフなど退院後の支援に必要な生活期事業所を交えての退院前カンファレンス開催を関係各位に呼びかけ、患者・家族と医療側、在宅側の退院支援計画の相違を少なくし、退院後もシームレスな支援が継続するよう努めている。

当院では細やかな退院支援を理想とし、それを実現するためにMSWがすべての関係者間の「糊」の役割をしている(写真2)。最重要といえる退院後の生活意向の早期に確認することで患者・家族の希望に沿った退院支援計画が遂行され则认为。